

## 9

# 昔から今へと続くまちづくり

きょうど はっ てん  
郷土の発展につくした人々

ち いき かん けい ふか じん ぶつ  
地域に関係が深い人物について  
しら  
調べてみよう。



茶のみやきんじろう  
©掛川市



よしおか やよい きねん かん  
掛川市吉岡彌生記念館

## 活動

- 女性に医学の門を開いた人物について調べてみよう。
- 吉岡彌生は、どのような願いから学校をつくったのか、話し合おう。
- 調べたことをまとめよう。

## 女性に医学の門を開いた吉岡彌生

やよいさんたちは、東京女子医科大学をつくり、女性の医学教育につくした吉岡彌生（今の掛川市下土方出身）について調べました。

吉岡彌生は、1871年、医師の鷺山養斎の家に生まれました。

彌生は、5才で嶺向学校に入学しました。そのころは、みんなまずしくて、学校に通える子はあまりいませんでした。さらに女子は、全校でたった2人しかいませんでした。彌生は、妹たちのせわをしながら、熱心に勉強しました。

小学校を卒業してから2年間ほど裁縫を習ううちに、新聞を読むようになりました。そのころは、女性は男性より地位が低く見られ、女性が上の学校へ行ったり仕事をもったりすることは、いけないことだと考えられていました。しかし、新聞には人間はみな自由で平等でなければならない、だから女性も男性と同じように学校へ行ったり、仕事をしたりできるようにしよう、という考えが書いてありました。彌生は、自分も医師になって働

## 学習問題

わたしたちの地域は、だれが、どのようにしてくらしやすい地域にしたのだろう。



いてみたいと思うようになりました。

そんなある日、2人の女性が医師になったという記事が、新聞に出ていました。彌生は、自分も医師になることを決心しました。

しかし、お父さんは「男と女はちがう。」と許しませんでした。彌生は、あきらめず、何度も何度もおねがいし続けました。同時に、夜おそくまで勉強して、医師になるための学校に行ってもこまらないようにしようとしました。

こうした彌生のがんばりを見て、お父さんは、東京の学校に行くことを許しました。彌生は、1889年18歳の時に、東京の済生学舎に入学しました。

1892年、いっしょうけんめいに勉強を続けてきた彌生は、医術開業試験にみごと合格し、日本で27番目の女性医師になりました。

医師になり、病院を開いて患者さんを診察していた彌生のところに、済生学舎が学校のつごうで女子を入学させない、という知らせがとどきました。このままでは女性は医師になれなくなってしまいます。そこで、彌生は医師をめざしている女子学生のために、1900年、夫婦で力を合わせて東京女医学校をつくりました。最初の生徒は、たった4人でした。いろいろな勉強道具もありません。しかし、彌生は、お金を借りたり、夜おそくまで働いたりして、学校を少しずつ大きくしていきました。

こうした彌生の努力で、東京女医学校は、1912年に東京女子医学専門学校、1951年に東京女子医科大学となり、今も毎年多くの女性の医師や看護師を世に送り出しています。1998年には大東町下土方（現在の掛川市下土方）に東京女子医科大学看護学部大東キャンパスが開校し、2020年4月に東京都に移転しました。

彌生は、無料診療所（ただで病気やけがをなおしてくれるところ）をつくり、まずしい人を助けることにも熱心に取り組みました。



東京女子医科大学所蔵



## がくもん 学問を広めた おかだ さへいじ 良一郎・良平

右の人物像を見たことがありますか。この石像の人は二宮尊徳（金次郎）という人です。尊徳の「報徳」といわれる「いっしょうけんめい働き、人々にめぐみを与える教え」を広めた人として、岡田佐平治、岡田良一郎、岡田良平があげられます。



### ◎岡田佐平治 (1812~1878)



佐平治は、倉真村の農家の次男として生まれ、家の農事をつぎました。家のことだけでなく、村全体のことを考えて倉真村をよりよくしようと、力をそそいでいました。

ある時、佐平治は二宮尊徳の教えにふれ、それをじっさいにためし、報徳の教えのすばらしさにひかれて、ちよくせつその教えを受けました。

佐平治は、こまっている人たちの相談を受け、報徳の教えを広めていきました。このころ、農家の人たちは苦しい生活をしていましたが、報徳の教えを行っていくうちに、人々の生活はよくなっていきました。この教えは、今でも受けつがれていき、「大日本報徳社」のもとをきずきました。

### ◎岡田良一郎 (1839~1915)



佐平治の長男の良一郎は、1877年、自分のお金で「冀北学舎」とよばれる塾をつくりました。この塾は、地域の人材を育てるためのもので、12才~17才までの男子を集めました。そこでは、読書をし、学舎内のそうじや畑仕事もしました。また、すでに英語の必要性を感じ、外国から取りよせた英語の本で勉強しました。

### ◎岡田良平 (1864~1934)



良一郎の長男の良平は、学校の先生をつとめたあと、文部省とよばれる国の教育についてかかわる役所の仕事につき、全国各地に教育の大切さを広めていきました。その後、文部大臣にもなりました。また、大日本報徳社のしきち内に淡山翁記念報徳図書館をたてました。

掛川の教科書「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたい 一掛川の偉人ものがたり」も活用できます。



しず おか けん ち いき はっ てん  
静岡県の地域の発展につくした人には、どのような人がいる  
のだろう。

◎産業の発展につくした人



ほん だ そう いち ろう  
本田宗一郎 (1906～1991)

高い技術でオートバイや自動車用エンジンの開発に力を  
注ぎ、日本の自動車工業の発展につくした人

- ・磐田郡光明村（浜松市天竜区）生まれ。
- ・自動車修理の仕事しながら、織機やエンジンの開発をするために研究を続けました。
- ・浜松にオートバイを作る会社を設立しました。高い技術は海外にも広まりました。

◎文化の発展につくした人



いの うえ やすし  
井上靖 (1907～1991)

「しろばんば」や「天平の薨」など、多くの物語や詩を生  
み出した日本を代表する作家

- ・天城湯ヶ島で幼少期をすごしました。
- ・浜松、沼津の学校を卒業後、小説や詩などさまざまな作品を発表しました。
- ・現代でも、多くの人に読みつがれています。

◎医りょうの発展につくした人



は せ がわ たもつ  
長谷川保 (1903～1994)

貧しい人や病気の人など、弱い立場の人々の幸せを願っ  
て、社会福祉の取り組みを広げた人

- ・浜松市高町（浜松市中区高町）生まれ。
- ・妻とともに、結かく患者のための療養所をつくりました。
- ・聖隷浜松病院をつくりました。命に寄りそうことを目的に、日本初のホスピスをつくりました。